

■コメント

1. ヘルパンギーナ

定点当たり1.08人と、先週と比べやや増加しています。

乳幼児を中心に、毎年夏季に流行するウイルス性の感染症で、回復後症状がなくなっても、2～4週間の長期間にわたって便などにウイルスが排出されます。

予防には手洗い・うがいの励行が大切です。

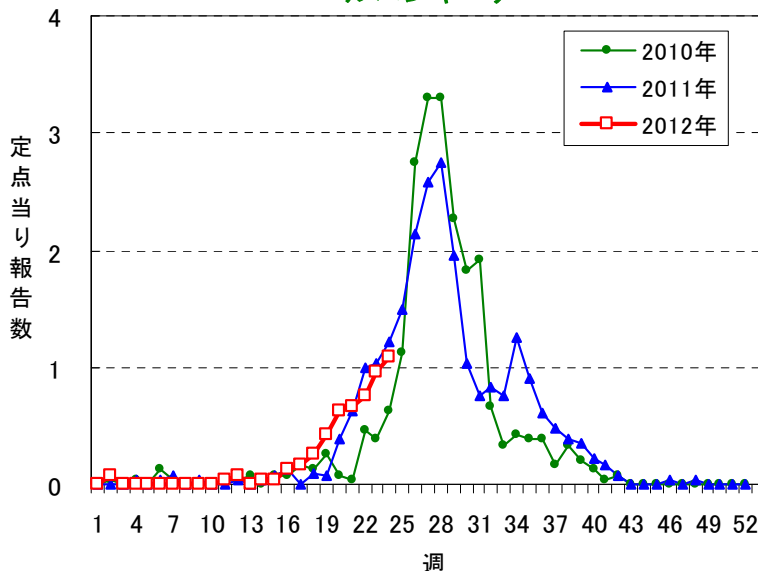
2. 腸管出血性大腸菌感染症

1件(O26)の報告があり、今年の累計は4件となりました。例年、気温が高い時期に多発する傾向にあります。子どもと高齢者は重症化しやすいので特に注意が必要です。

3. 風しん

1件の報告があり、今年の累計は2件となりました。今年は近畿地方を中心に風しんの報告数が増加しています(次頁参照)。

ヘルパンギーナ



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注)	発生記号
インフルエンザ	2	0.05	0.03		ヘルパンギーナ	26	1.08	1.42	
咽頭結膜熱	8	0.33	0.63		流行性耳下腺炎	5	0.21	0.73	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	49	2.04	1.98		RSウイルス感染症	3	0.13	-	
感染性胃腸炎	146	6.08	5.14		急性出血性結膜炎	-	-	0.08	
水痘	47	1.96	1.71		流行性角結膜炎	6	0.75	1.08	
手足口病	-	-	2.17		細菌性髄膜炎	-	-	-	
伝染性紅斑	2	0.08	0.54		無菌性髄膜炎	-	-	-	
突発性発しん	15	0.63	0.90		マイコプラズマ肺炎	5	0.71	0.20	
百日咳	1	0.04	0.23		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	→	←	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当り)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	8	161	男性(30歳代)・2人、男性(50歳代)・1人、女性(50歳代)・1人、男性(60歳代)・1人、男性(70歳代)・1人、男性(80歳代)・1人、女性(80歳代)・1人
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	4	男性(10歳代)・O26
4	A型肝炎	1	7	女性(20歳代)
5	風しん	1	2	女性(40歳代)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		インフル エンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎
報告数	第20週	10	9	41	176	33	1	5	12	8	15	5	2	-	5	-	-	7	-
	第21週	1	7	39	204	34	1	4	13	6	16	5	1	-	1	-	-	4	-
	第22週	-	17	55	185	49	5	5	13	8	18	7	4	-	9	-	-	5	-
	第23週	-	16	39	148	42	-	6	6	6	23	5	3	-	6	-	-	1	-
	第24週	2	8	49	146	47	-	2	15	1	26	5	3	-	6	-	-	5	-
定点 当り	第20週	0.27	0.38	1.71	7.33	1.38	0.04	0.21	0.50	0.33	0.63	0.21	0.08	-	0.63	-	-	1.00	-
	第21週	0.03	0.29	1.63	8.50	1.42	0.04	0.17	0.54	0.25	0.67	0.21	0.04	-	0.13	-	-	0.57	-
	第22週	-	0.71	2.29	7.71	2.04	0.21	0.21	0.54	0.33	0.75	0.29	0.17	-	1.13	-	-	0.71	-
	第23週	-	0.67	1.63	6.17	1.75	-	0.25	0.25	0.25	0.96	0.21	0.13	-	0.75	-	-	0.14	-
	第24週	0.05	0.33	2.04	6.08	1.96	-	0.08	0.63	0.04	1.08	0.21	0.13	-	0.75	-	-	0.71	-
全国	第22週	0.31	0.49	2.84	9.09	1.42	0.21	0.18	0.69	0.05	0.36	0.51	0.12	0.02	0.58	0.03	0.03	0.83	0.04
	第23週	0.21	0.52	2.59	8.00	1.49	0.26	0.18	0.67	0.04	0.54	0.47	0.10	0.01	0.62	0.03	0.03	0.88	0.05

■新たに判明した病原体検出状況

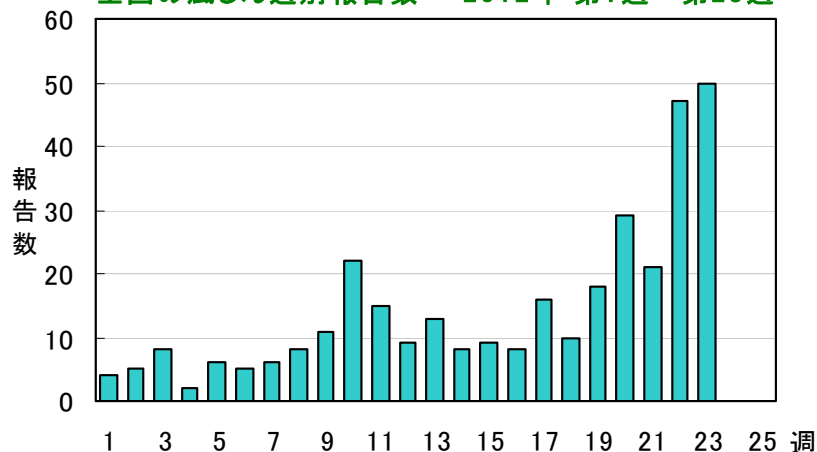
(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
川崎病(MCLS)	発熱(39.3) 発疹 リンパ節腫脹	2	男	2012/05/09	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型
その他の呼吸器疾患	発熱(37.7) 気管支炎 熱性痙攣	0	女	2012/05/07	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(40.0) 気管支炎	2	女	2012/05/05	鼻汁(拭い液)	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(38.0) 気管支炎	1	男	2012/05/09	咽頭拭い液	ヒトボカウイルス
その他の発疹性疾患	発熱(39.0) 紅斑 上気道炎 眼瞼腫脹	2	女	2012/04/29	鼻汁(拭い液)	ヒトヘルペスウイルス6型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

★風しんに注意しましょう

全国の風しん週別報告数 2012年 第1週～第23週



風しんは風しんウイルスの飛沫感染によって起こる発しん性疾患です。女性が妊娠初期に初感染すると、流産あるいは新生児に難聴、白内障、心奇形などの先天性異常、いわゆる先天性風しん症候群を起こす場合があります。特に注意が必要です。

今年は3月以降、兵庫県、大阪府、京都府を中心に患者が増加し、全国の患者数は昨年同時期の2倍となっています。広島市においては、現在のところ増加傾向は見られませんが、今後流行する可能性があるため、注意が必要です。

これまでに風しんにかかったことがない人、もしくは風しんの予防接種を受けてない人は、予防接種を受けましょう。

風しんの予防接種等に関する情報は以下のホームページでご覧いただけます。

風しんに要注意！ <http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/0000000000000/1338441470548/index.html>

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2012年第24週(6月11日～6月17日)